

伝道者の書 3:1-15 人生の四季

今日は一時的にコリント人への手紙から離れ、皆さんに、特に一つの時期、人生の一時節の終わりを迎え、新たな次の季節を迎えようとしている卒業生の皆さんにお話ししたいと思います。ある王である、彼の人生の終わりに私たちがこの生涯で経験するほとんどのことの空しさ、無益さを記述した書を執筆したソロモンという名の人が旧約聖書にいました。その書は伝道者の書です。そしてそれを書いた人は今日生きている人誰よりも、また歴史上の誰よりもより資金も、権力も、比類なき人生経験も、そして恋愛、性的経験さえも持っていました。ですから、その人が人生について執筆する時、私たちはよく耳を傾けるべきです。伝道者の書 3章 1-15節で神はソロモン王を通して私たちが人生で体験する様々な変化と季節を語られます。ソロモンは伝道者の書 3章をすべてに、私たちの人生のどの部分にも時期があると言って始めています。まず、伝道者の書 3章 1-8節を読みましょう。

伝道者の書 3章 1-15節 1 すべてのことには定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある。2 生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えた物を抜くのに時がある。3 殺すのに時があり、癒やすのに時がある。崩すのに時があり、建てるのに時がある。4 泣くのに時があり、笑うのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。5 石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。6 求めるのに時があり、あきらめるのに時がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。7 裂くのに時があり、縫うのに時がある。黙っているのに時があり、話すのに時がある。8 愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦いの時があり、平和の時がある。

季節は皆さんご存じのように一年のある区分された期間です。それぞれの季節は変化をもたらします。春が近づけば陽気が暖かくなります。そして、木々の芽が出始めます。桜が咲き、葉が見え始めます。やがて草木が茂り、日が延びて蒸し暑い夏が来ます。暑さにやっと慣れた頃には、葉は紅く色づき始め、涼しい秋が訪れます。そして、葉が落ちた木々だけが残り、寒さが厳しくなり、日が短くなって冬になり、最後に再び春が戻ります。私たちの人生の日々も同様です。私たちが生まれた時と定められた死を迎える時の間には様々な季節があります。植えて、植えた物を抜く又は収穫し、建てるために石を集め、新しい衣服を縫う時は成長と変化の時期です。私たちが愛する人や物が私たちの生活から取り去られるつらい別離の時期があります。それらが崩壊するのを見ます。時として、神の私たちの生涯のための御計画に従うために私たち自身がそれらを捨て去らなければいけない時さえあれば、織物から布がはがされてしまうような時もあります。皆で笑い、踊り、愛する人を愛し抱擁する大きな幸せの時があります。しかし、失う人や物を嘆き悲しむ大きな不幸の時もあります。私たちが愛する人を抱擁することができなくなってしまふ関係を持つこととなります。人を殺すことや憎むことが私たちの生活の一部になってしまう戦争のようなとても困難な出来事に神があなたを加担させる事は 私たち自身そして私たちの神に対しても疑問に思わせてしまいます。しかし、そのような時が来る時、私たちは人生の真の平和を求めて見つける希望を与える関係を保ち続けることによって、やがて癒しの時が来ることを望みます。それぞれの状況で、私たちは沈黙を守る時と口を開いて話す時を知らなければなりません。

私たちの誰もがある程度の年齢まで生きていればこれらに似通った体験や活動の経験をしているでしょう。多くの描写は素晴らしそうですが、その他の多くはかなりひどそうです。この聖書箇所のごく一部分が引用されるのをよく耳にしますが、神のこれら人生の季節についての主要なメッセージは伝道者の書 3章の後半にあります。9 節から続けていくと、これらの季節それぞれがもたらすことができる神の恵みの素晴らしいメッセージが伝わってきます。9-13節を読みましょう。**9 働く者は労苦して何の益を得るだろうか。10 私は、神が人の子らに従事するようにと与えられた仕事を見た。11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。12 私は知った。人は生きている間に喜び楽しむ。**9-13節で見ます。私たちが人生で行う事の無益さの憂鬱な思いに対する応答として彼が与える美しい命の息吹きを与えるこのメッセージに注目してください。著者ソロモンは、神はそれぞれの民が通り抜ける人生のこれら

の季節をご覧になり、全ての者の時節を時にかなって美しくされますと言います。その時は多くの困難の後に来るかも知れません。多くの嘆きの後かも知れません。多くの痛みや苦しみの後に来るかも知れません。それでも、神は全てを時にかなって美しくされます。まさにその'時'の理由から、私たちには人生の季節を通り抜けている間に神の恵みを見ることも気づくことさえも難しいのです。11節の終わりにはこう書かれています。 **神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。** 私たちは永遠のために造られています。しかし、永遠に在られ、全てを上からご覧になる神とは違い限られた時間を見ることしかできない私たちには今いる時節の終わりを見ることができません。神は私たちが通り抜ける間 私たちと共におられるだけではなく、この時節の終わりがいつになり、どうなるのかをすでに定められておられます。その季節がどんなものであろうとも、神はそれを時にかなって美しくなさる事を私たちは知っています。 **ローマ人への手紙 8章28節 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。**

神を愛する人にとり、全てのことは益となり、美しくなる可能性があります。そして、神の恵みの確信が与えられ、私たちがどんな季節を通ろうとも、どんな人生の状況下にあろうとも、12節と13節が言うように、私たちには最悪の状況においても喜びを見つけ、真に満たされる経験となる時節に **幸せを見出す** ことが出来ます。しかしどの季節においても神の恵みがあることは9節に問われる疑問への二つ目の応答に導きます。 **働く者は労苦して何の益を得るだろうか。** もし神が私たちの人生のどの季節にも関わっておられ、私たちが通るどの状況にも目的があるのならば、それはどの季節も永遠の意義があり、私たちがすることすべては永遠の重要性があるという事です。14-15節を見てください。 **14 私は、神がなさることはすべて、永遠に変わらないことを知った。それに何かをつけ加えることも、それから何かを取り去ることもできない。人が神の御前で恐れるようになるため、神はそのようにされたのだ。 15 今あることは、すでにあったこと。これからあることも、すでにあったこと。追い求められてきたことを神はなおも求められる。** ソロモンは神は永遠であられ初めから終わりまで知っておられ、神がなさることは何であれ、永遠に正確で確実であることに気づきました。人は誰も神が望まれる以上にすることはできません。 **それに何かをつけ加えることも、それから何かを取り去ることもできない。** そして、誰も神が望んでなさる事から何かを取り去ることによって台無しにすることは出来ません。神が何かをなさる時、それには必ず意味があります。なぜなら、神は御自身に民が 栄光を帰すために、または14節が言うように **神の御前で恐れるようになるため** なさるからです。そして、15節は神は過去になさった事を未来に繰り返されると基本的に述べて彼の思考を完結させます。ですから、ソロモンが経験し、何千年前に書いた事は現在私たち自身の生涯で神がなさるだろうと予期できる事です。言い換えれば、歴史は繰り返されるのです。私たちの先人は同じ人生の四季を通して行きました。神は今と同じように働かれ、未来においても同じようになさるでしょう。最後の語句、 **追い求められてきたことを神はなおも求められる。**

はまるで、神は過去を用いられて私たちに神が現在と未来にどのようになさるかを教えられると言っているようです。これら全ては神が永遠の視点から歴史と私たちの生涯で御手を動かされているため、神がどの状況、どの季節でなさる事も、私たちが神の栄光のためにその時を使えば、永遠の意味を持つと言う事実を指し示しています。神が私たちの益のため、御自身の栄光のために私たちの人生のどの季節においても働かれていることを知り、そして、私たちがそれがどのように私たちの人生の四季でどのように益となるのかを理解できてもできなくても、私たちの生涯のどの時節も永遠の重要性と結果を持ちます。私たちの人生の四季の上の神の主権と摂理のレンズを通してすべてを見ると無意味な役割、無意味な仕事、無意味な関係、私たちの生涯の無意味な部分などありません。

さて、それでは **ど** のようにしてあなたの人生の四季がどんなに良くとも悪くとも、それに臨むこの姿勢とそれへの対応を養っていくのでしょうか。まず、神との真の関係が必要です。神を個人的に知らずに決して神に栄光を帰すことは出来ません。ローマ書は私たちの自然な状態は神に栄

光を帰すことは出来ないと言っています。ローマ人への手紙 3章23節 **すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**

その罪の唯一の解決策は私たちの贖い主イエス・キリストです。イエスは十字架の上で死なれて私たちの罪を御自身で負われた。その私たちが受けるべき刑罰は父なる神によってイエスに下された。コリント人への手紙第二 5章21節 **神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。** 私たちが神に栄光を帰す唯一の方法は無辜になる事です。そして、義となる、無辜となる、唯一の方法は イエス・キリストへの信仰を通してのみ与えられる神の義に与る事です。ローマ人への手紙 4章3節 **3 聖書は何と言っていますか。「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあります。**

そして、パウロはこの章を進めて、22-25節で私たちへの適用を伝えてくれています。ローマ人への手紙 4章22-25節 **22 だからこそ、「彼には、それが義と認められた」のです。23 しかし、「彼には、それが義と認められた」と書かれたのは、ただ彼のためだけでなく、24 私たちのためでもあります。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、義と認められるのです。25 主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました。** そして使徒の働きの手紙ではこう記されています。使徒の働き 16章37節 **二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」** あなたの主として、救い主としてのイエス・キリストへの信仰を通してのみ修復される神との関係なくして、神に栄光を帰すことは出来ません。そして、あなたの人生の四季はあなたの生涯の短い年月が過ぎると永続する意味を持たず、ほとんどの場合その時節の直近の状況のみ残ります。次に、あなたの人生の四季に臨む姿勢と対応を養うには、あなたがどんな季節にいようと神の慈しみを味わう必要があります。詩篇 34章8節 **味わい見つめよ。主がいつくしみ深い方であることを。幸いなことよ 主に身を避ける人は。**

私たちはあまりにもマタイの福音書14章でのイエスの弟子ペテロのようであるために神が季節毎にもたらされる恵みを見る事が出来ないことが多すぎます。イエスは嵐の湖の上を歩かれました。ペテロはイエスと一緒に湖の水の上を歩きました。イエスから目を離す前までは、全てが順調でした。イエスから目を逸らし、イエスへの信仰の代わりに周りの荒れた波を見て恐怖心が湧きました。状況や私たちの季節の困難に圧倒される時、主の慈しみを味わうことも出来なくなります。そのような最中でさえも、もたらされる神の恵みはほとんどの場合目に入らず気付きません。

第三に、私たちは一つの季節から次の季節へと、進んで移るべきです。ソロモンが指摘するように、神は私たちの生涯には多くの様々な季節があるよう計画されました。中には今あなたがいる季節を本当に楽しんでいる人もいるでしょう。あなたが卒業される今の学年、または今参加できている活動かもしれません。素晴らしいことです。すでに指摘したように、あなたは楽しむべきです。しかし、神は私たちが肉体的にも、霊的にも成長して、成熟するよう創造されてもいます。200の漢字を習う3年生と4年生より、80の漢字しか習わなくてもよい1年生に留まりたいと思ってもダメです。確かにより簡単です。でもそれではいつまでも成長できません。あなたが人生でしっかりと機能できるように成長できません。私たちが精神的にまた時として肉体的にさえ次の季節に移ることに抵抗する時、霊的にも同じことが起こります。なぜ20代後半や30代の方が年若い男の子のように、両親と家に住み、ビデオゲームに夢中になり、ろくに仕事もしないのでしょうか。彼らは次の季節に移り、前進することを望んでいないのです。大人としての責任や御心であれば家族さえ持ち養っていかねばならない事を望んでいません。神はあなたがこれらの季節を通していくよう創造されました。私たちはそれらの変化を神の慈しみを体験し、その過程で神に栄光を帰すチャンスとして受け入れるべきです。今日ここに集う私たちはそれぞれに人生の異なる季節を過ごしています。そして、それぞれの季節は永遠の意味を持つことが出来ます。そうなるかどうかはあなた次第です。もうすぐ次の学年に進級する皆さん、あなたの人生の中のこの季節にあなたは神の恵みを知るために何をしますか。この季節に永遠の意味を持たせますか。それともあなたの人生の先に進むためだけのただのステップにしてしまいませんか。どの時

期、どの季節でも永遠の意味を持たすことができます。スタートするのは必ずしも大学生になってから、大学を卒業してから、初めて就職してから、結婚してから、子供が生まれてから、引退してから出なくとも大丈夫です。どの人生の季節も重要です。なぜならば、神はその主権によってあなたが通るすべての季節を定められたからです。そして、一つ一つの変化で様々な祝福を約束されました。まず、神を求めてください。

味わい 見つめよ。主がいつくしみ深い方であることを。いまあなたがどんな時期にしようとも。祈りましょう。

Ecclesiastes 3:1-15 Seasons of Life

Today I want to briefly go away from 1 Corinthians for a week, and speak to everyone, but especially the graduates who are looking forward to the end of one season or piece of their life and beginning the next. There was a man, a king, named Solomon in the Old Testament who wrote a book at the end of his life where he describes the vanity or uselessness of most things we experience in this life. That book is Ecclesiastes. And it is written by a man who had more money, more power, more unique life experiences, and even more romance and sexual experience than anyone alive today and possibly anyone in history. So when he writes about life, we need to listen. And in Ecclesiastes 3:1-15 God speaks through Solomon to talk about these different changes and seasons that we go through in our lives.

Solomon begins Ecclesiastes 3 by telling us that **everything, every part of our lives, has a season to it**. Let's read verses 1-8 of Ecclesiastes 3. **3 For everything there is a season, and a time for every matter under heaven: ² a time to be born, and a time to die; a time to plant, and a time to pluck up what is planted; ³ a time to kill, and a time to heal; a time to break down, and a time to build up; ⁴ a time to weep, and a time to laugh; a time to mourn, and a time to dance; ⁵ a time to cast away stones, and a time to gather stones together; a time to embrace, and a time to refrain from embracing; ⁶ a time to seek, and a time to lose; a time to keep, and a time to cast away; ⁷ a time to tear, and a time to sew; a time to keep silence, and a time to speak; ⁸ a time to love, and a time to hate; a time for war, and a time for peace.** A season as all of you know, is a period of time in a year. Each season brings changes. The air becomes warmer as Spring comes... buds begin to appear on trees... Sakura trees blossom... then leaves pop out and grass grows and days are long and hot and sticky as summer comes. But almost as soon as we are used to it, the leaves turn beautiful colors... the days get cooler during autumn... until just leafless branches remain... the days of winter grow cold and short... until finally the spring reappears. That is how the days of our life are. Between the time that we are born and that time appointed to all of us to die, there will be many seasons. *There are times of growth and change* where **planting, plucking** or harvesting, **building up, gathering stones** in preparing for that build, and **sewing** new garments, takes place. *There are times of hard separations* where people and things we love are taken out of our lives. We see those things **broken down**, sometimes may even have to **cast them away** ourselves as we try to follow God's plan for our lives, and other times they are **torn away** like cloth on fabric. *There are times for great happiness* where we will **laugh, dance, love** and **embrace** those we love. *But there are also times for great grief and sadness* where we will mourn and weep over things and people we lose. We will have relationships where we will no longer be able to **embrace** those we love. *God may have you be a part of very difficult events* where we question even ourselves or even our God like **war**, where **killing** and **hate** become a part of our lives. But when those times come, *we hope that eventually we have those healing times*, which usually come through **keeping relationships** that give us hope of **seeking** and finding real **peace** in our lives. And in each of these situations, we will have to know when to **keep silent** and when to open our mouth and **speak**.

Everyone of us if we live long enough will go through some aspect and some version of these activities. Many of those descriptions sound great, but just as many of them sound terrible. But while many times we hear parts of this passage quoted, God's main message about those seasons of life comes as we continue through the rest of

Ecclesiastes 3. The wonderful message that comes through as we continue in verse 9 is that **each one of these seasons of life can bring blessing from God**. Let's read verses 9-13. ⁹What gain has the worker from his toil? ¹⁰I have seen the business that God has given to the children of man to be busy with. ¹¹He has made everything beautiful in its time. Also, he has put eternity into man's heart, yet so that he cannot find out what God has done from the beginning to the end. ¹²I perceived that there is nothing better for them than to be joyful and to do good as long as they live; ¹³also that everyone should eat and drink and take pleasure in all his toil—this is God's gift to man. So if life is just a series of seasons that eventually lead to death, what gain is there in the things that we do with these seasons of our lives? Or as verse 9 says, **What gain has the worker from his toil?** He answers this in two ways really. The first we see here in verses 9-13.

Notice the beautiful, lifegiving message that he gives in response to what could be a depressing thought of uselessness to these things we do in our lives. The writer, Solomon, says he sees this work, these seasons of life that each person goes through, and that God makes everyone of them beautiful in some way **in its time**. That time may come after a lot of difficulty. It may come after a lot of grief. It may come after a lot of pain and suffering. But God makes everything beautiful in its time. It is for exactly that reason of "time" that it is hard for us to see God's blessing during all these seasons of our life. The ending of verse 11 that says, **he has put eternity into man's heart, yet so that he cannot find out what God has done from the beginning to the end**. We are created for eternity. but unlike God who has eternally existed and sees all things from outside our time-limited view, we cannot see the end of the season that we are in. God not only is with us during what we are going through, he has already ordained what and when the end of that season will be. We know that whatever that season is like, God will make it a thing of beauty in time. As **Romans 8:28 says, 28 And we know that for those who love God all things work together for good, for those who are called according to his purpose**. All things have the potential for good, for beauty to those who love God. And given the certainty of God's blessing, it is **God's gift** to us that whatever season we are going through, whatever circumstances of life we find ourselves in, as verse 12 and 13 say we can have **joy** even in the worst of circumstances and **take pleasure** in the seasons that are truly pleasing to experience.

But this truth of God's blessing in every season leads to a second response to the question posed in verse 9, **What gain has the worker from his toil?** If God is involved in each season of our lives, and has a purpose for each and every circumstance that we go through, then that means that **each Season can count for eternity**, and everything we do can have eternal significance. Look at verses 14-15. ¹⁴I perceived that whatever God does endures forever; nothing can be added to it, nor anything taken from it. God has done it, so that people fear before him. ¹⁵That which is, already has been; that which is to be, already has been; and God seeks what has been driven away. Solomon noticed that because God is eternal and knows the end from the beginning, that whatever God did, he made certain and secure for all eternity. No human could do more than what God wants, **nothing can be added to it...** And no human can mess up what God wants to do by taking away from it. When God does something, it is significant, because God is doing it so that people will glorify him or as verse 14 says, **"fear before him."** And anything done for the glory of God has eternal significance. Then verse 15 concludes his thoughts by basically saying that God repeats what he does in the past in the future. So, what Solomon experienced and wrote about thousands of years ago is what we can

expect God to do now in our own lifetimes. In other words, history repeats itself. People before us have gone through these same seasons of life and God has worked in the same way he does now and in the future. The last phrase, “**God seeks what has been driven away,**” seems to be saying that God uses the past to teach us about how he works in the present and future. All of this is pointing to the fact that because God is working in history and in our lives from the perspective of eternity, then what he is doing in every circumstance and season can count for eternity if we engage with that season for God’s glory. If we see that God is working for our good and his glory in every season of life, and seek to bring God that glory whether we understand how it is for our good, in every season of life, then every part of our lives has eternal consequence and results. There is no insignificant role...no insignificant job...no insignificant relationship...there is no insignificant part of our lives when we view everything through the lens of God’s sovereignty and providence over the seasons of our lives.

Now, how do you cultivate this attitude and response to the seasons of your life no matter how good or bad you perceive those seasons to be? First, it requires a real relationship with God. You can never glorify God without knowing him. The book of Romans tells us our natural state is one of not glorify God. [Romans 3:23 says, 23 for all have sinned and fall short of the glory of God...](#)” The only answer to that sin is our redeemer Jesus Christ. He died on a cross and took that sin on himself as well as taking our punishment that God the father poured out on him in response to that sin that was ours. [2Corinthians 5:21 says, For our sake he \[God the Father\] made him \[Jesus Christ\] to be sin who knew no sin, so that in him \[Jesus Christ\] we might become the righteousness of God.](#) The only way we truly glorify God is by being without sin. And the only way we become righteous, without sin, to that level is by having God’s righteousness that only comes through faith in Jesus Christ. [In Romans 4:3 we read, 3 For what does the Scripture say? “Abraham believed God, and it was counted to him as righteousness.”](#) Then Paul continues the chapter and applies it to us in verses 22-25. [22 That is why his faith was “counted to him as righteousness.” 23 But the words “it was counted to him” were not written for his sake alone, 24 but for ours also. It will be counted to us who believe in him who raised from the dead Jesus our Lord, 25 who was delivered up for our trespasses and raised for our justification.](#) And in the book of [Acts 16:31, we read, Believe in the Lord Jesus, and you will be saved, you and your household.](#) Without a relationship with God that only comes through faith in Jesus Christ as your Lord and Savior, you cannot glorify God. And the seasons of your life will have no lasting significance past the short years of your life and many times just the immediate circumstances of that season.

Second, to cultivate this attitude and response to the seasons of your life, you need to savor the goodness of God no matter what season of life you are in. [Psalm 34:8 says, Oh, taste and see that the LORD is good! Blessed is the man who takes refuge in him!](#) Too many times, we will never see the blessing that God can bring to every season because we are too much like Jesus’ disciple Peter in Matthew 14. Jesus walked out on stormy seas, and Peter joined Jesus in walking on the water of the lake. All was well until Peter took his eyes off of Jesus and looking at the waves around them caused fear to take over instead of faith in his Lord. When we are overwhelmed by the circumstances and difficulties of our season and fail to taste and see that the Lord is good, even during that time, we will be many times be blind to the blessing that God can bring from that time.

Third, we must be willing to move from season to season. As Solomon points out, God has planned our lives that there will be many different seasons in it. Some of you have really enjoyed the season you are in, whether it is the grade level you are graduating from, or the activities you have been able to participate in during this time. That is great, and as we have pointed out, you should take pleasure in it! But, God also designed us to grow up, to mature, both physically and spiritually. You can't stay in first grade just because first grade only made you learn 80 kanji instead of the 200 required in 3rd and 4th grade. Yes, its easier, but you will never mature. You will never grow the way you need to for functioning in life. And it is the same for us spiritually, when we emotionally or even sometimes physically fight against moving to the next season of life. Why do we have men who are in their late 20's and even 30's still acting like young boys, living at home with their parents playing video games and sometimes not even employed? Because they don't want to move on to the next season of life, that comes with responsibility and Lord willing even families of their own to take care of. God designed you to go through these seasons, and we should embrace these changes as opportunities given by God to experience his goodness and glorify him in the process.

All of us here today will go through different seasons in our life, and everyone of them can count for eternity. Whether it does or not, is up to you. For those of you who will soon begin the next season with the next grade, what is it that you will do to see God's blessing on this season of your life? Will you make it count for eternity? Or just be another step that you have to do to get you to another place in life. Every single period, every season, can count for eternity. It doesn't have to start when you are in college, or out of college, or in your first job, or married, or have kids, or retire. Every season of life counts, because God is sovereignly ordaining every season that you go through and has promised blessing in some way with every one of those changes. So seek God first. [Taste and see that he is good](#), no matter what time you find yourself in. Let's pray.